

「あまりを考える問題」

答えをふやす・ふやさない場合の考え方

あまりのあるわり算のもとめ方（ふく習）

前回のわり算の学習では、「あまり」があるわり算の考え方やもとめ方を勉強したよね。

もとめ方をもう一度かくにんしておこう。

あまりのあるわり算の計算のやり方

- 1：「わる数」の九九をつかって考える。
- 2：わられる数に近くて、それよりも少ない九九の答えをさがす。
- 3：さがした答えを、わられる数からひいて、あまりをもとめる。

たとえば「 $41 \div 6$ 」だったら、

6のだんの九九で、わられる数に近くてそれよりも少ない答えをさがすと、

$$6 \times 6 = 36$$

になるね。

つぎに、さがした答えを、わられる数からひいて、あまりをもとめるので、 36 を 41 からひいて、あまり 5

$41 \div 6 = 6$ あまり 5 ともとめることができたよね。



あまりを考える問題①（答えを1つふやす場合）

「あまりを考える問題」って、どういうこと？と思うよね。

「あまりを考える問題」とは、あまりのあるわり算の「あまりをもとめたあと」、考えなくてはいけないことがある問題のことなんだ。

ことばだけではピンとこないよね。

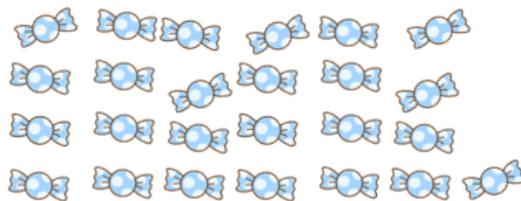
じっさいに問題を見てみよう。

25このあめを箱に入れます。

1箱には4こまでのあめを入れることができます。

箱は全部で何こあればよいですか。

25このあめ



25こを4こずつ「わける」から、

$25 \div 4$ を計算したらいいね。さっきと同じようにやってみよう。

$25 \div 4$ は、わる数が「4」だから、

4のだんの九九で、わられる数に近くてそれより少ない答えをさがすと、

$$4 \times 6 = 24$$

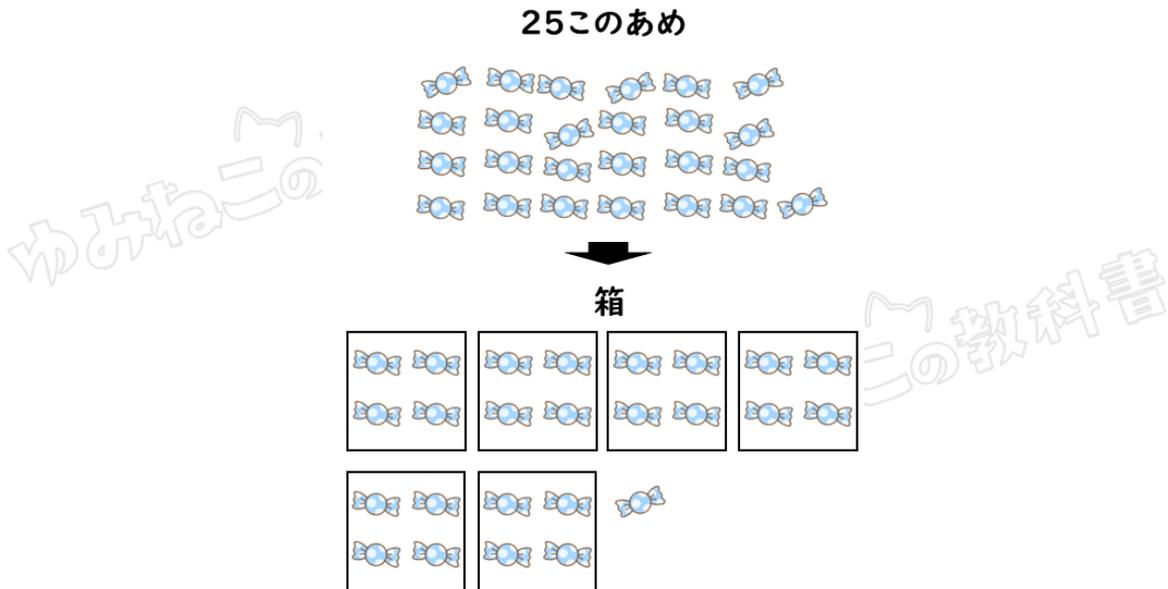
24を25からひいて、あまり1

$25 \div 4 = 6$ あまり1とまとめることができたね。



答えが「6（あまり1）」だから、箱は6こあればいいと思ってしまいかもしれないね。

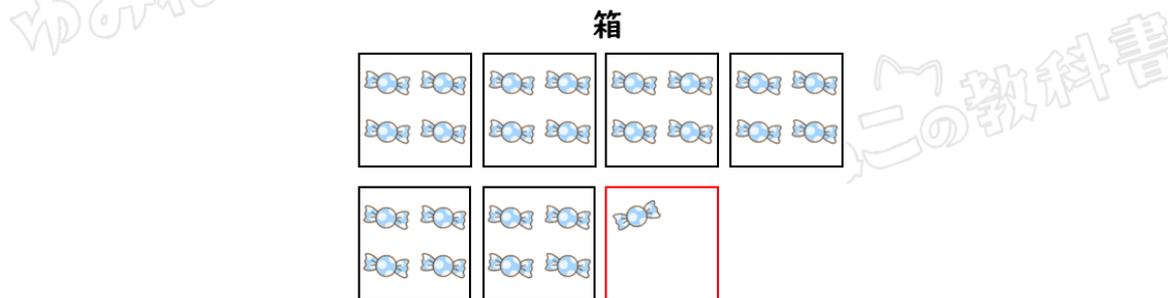
でも、そうしたらあまりの1このあめは、どうなるかな？



あまり1ということは、1このあめがまだ箱に入っていないよね。

なので答えが「6」だからといって、そのまま「ひとつような箱は6こ」になるわけではないんだ。

あまりのことも考えると、もう1こ箱がひとつようになるんだよ。



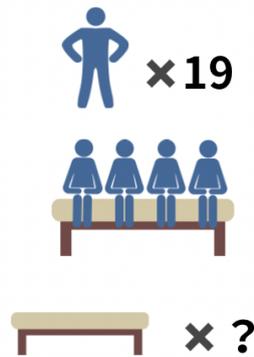
ひとつような箱の数は、全部で

$$6 + 1 = 7$$

7こになるよ。



4人ずつ座ることができるイスに19人全員がすわる時、
イスは何きやくいりますか。



19人を4人ずつ「わける」から、
19÷4を計算したらいいね。さっきと同じようにやってみよう。

19÷4は、わる数が「4」だから、
4のだんの九九で、わられる数に近くてそれより少ない答えをさがすと、

$$4 \times 4 = 16$$

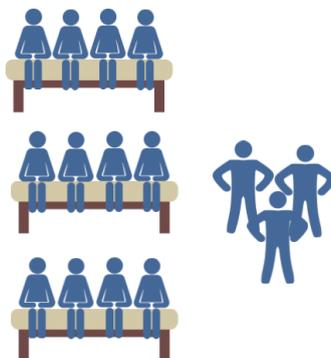
16を19からひいて、あまり3

19÷4=4あまり3ともとめることができたね。

答えは「4(あまり3)」だけれど、イスは4きやくあればいいのかな？

あまり3ということは、

3人がイスにすわれていないよね。



だから、もう1きやく、アイスがひつようだよ。
全部でアイスは $4+1=5$ きやくだよ。

このように、あまりのあるわり算の問題をとくときは、問題のいみをよく考えて、「あまりをそのままにしているのか？」どうかをたしかめるひつようがあるよ。

今考えた「あめを箱に入れる」問題と「アイスにすわる」問題のばあいは、あまりをそのままにすることはできないので、「答え」の箱やアイス数を1つふやさなくてはいけなかったね。

あまりを考える問題①

あまりのあるわり算では、あまりをそのままにすることができないときは、
答えを1つふやすひつようがある

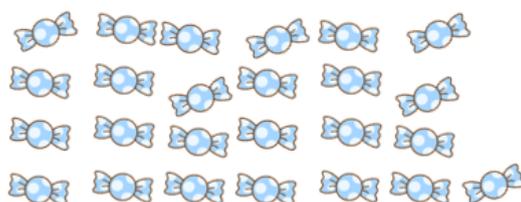
あまりを考える問題②(答えをふやさない場合)

あまりを考える問題は、「あまりをそのままにすることができないので、答えを1つふやす」ばあいだけではないんだ。

つぎの問題を考えてみよう。

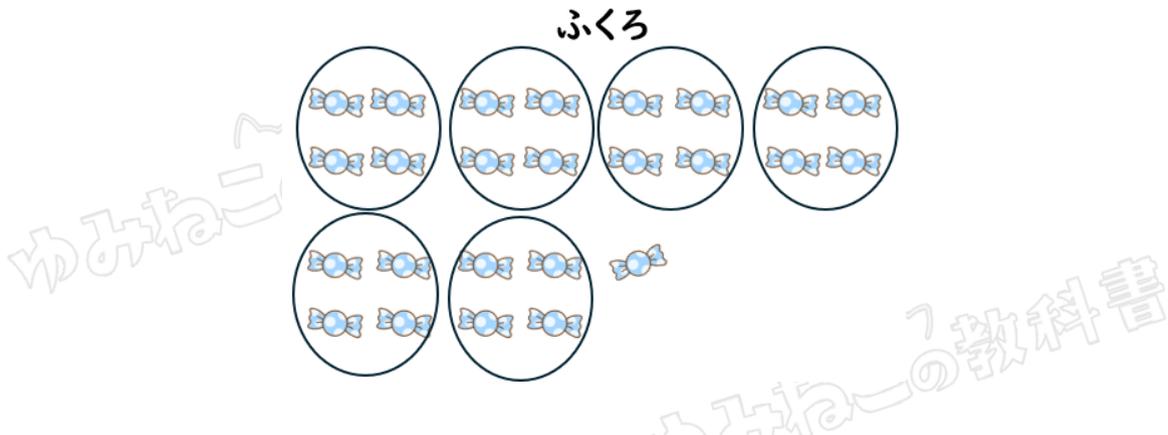
あめが25こあります。1つのふくろに4こずつあめを入れて、お店で売ります。
4こ入りで売ることができるふくろはいくつできますか。

25このあめ



25÷4を計算したらいいから25÷4=6あまり1ともとめることができるね。

あまり1ということは、1このあめがふくろに入っていないよね。



このあまった1このあめも、ふくろに入れるひつようがあるかな??

今回の問題は、あめをふくろに4こずつ入れて売っているんだよね。
 ということは、あめが1こしか入っていないふくろを売ったらダメだよ。

だから、お店で売ることができるふくろの数は6つになるよ。
 あまりがあっても、答えの数をふやさないんだね。

もうひとつ考えてみよう。

花が35本あります。この花を4本ずつの花たばにします。
 花たばはいくつできますか。



35÷4を計算したらいいから35÷4=8あまり3ともとめることができるね。

あまり3ということは、3本の花がのこっているね。



4本でひとつの花たばにするのだから、3本では花たばはできないね。
だから、花たばの数は8つともとめることができるよ。

このように、あまりがあっても、ふくろや花たばの数(答えの数)を1つふやしてはいけないばあいもあるんだね。

あまりを考える問題②

あまりのあるわり算では、あまりがあっても、
答えを1つふやすことができないばあいがある

「あまりを考える問題」のまとめ

- ・あまりがあるわり算の文章問題のときは、あまりを求めてから、あまりをそのままにしてよいのかどうか、考えなくてはいけないときがある。
- ・あまりがあるわり算の問題によって、あまった分を考えて、
答えの数(箱やふくろの数)を1つふやすひつようがある。
- ・あまりがあるわり算の問題によって、あまりがあっても、
答えの数(箱やふくろの数)を1つふやすことができないばあいがある。

